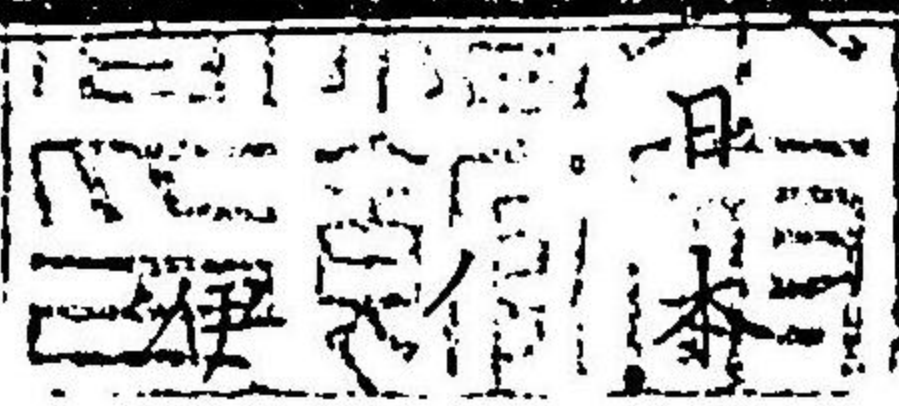
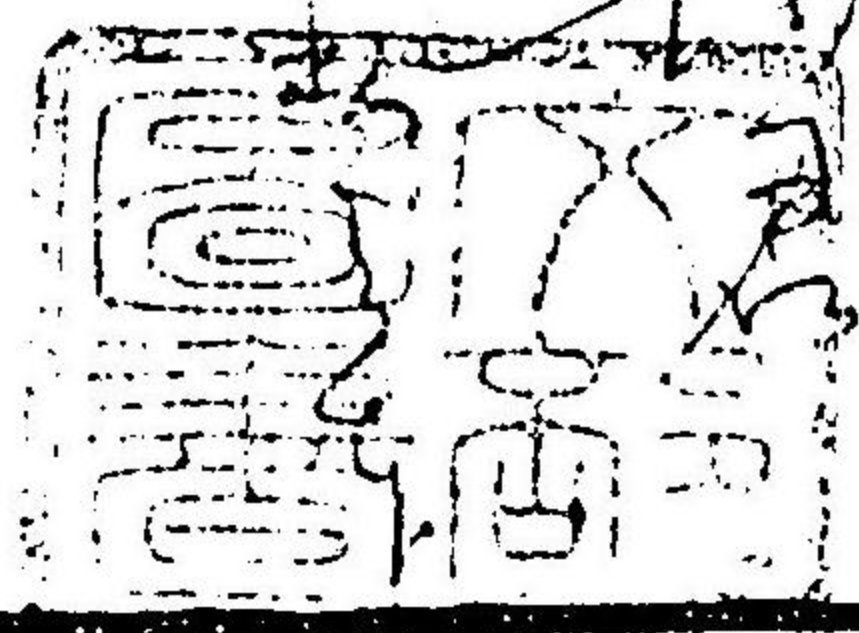
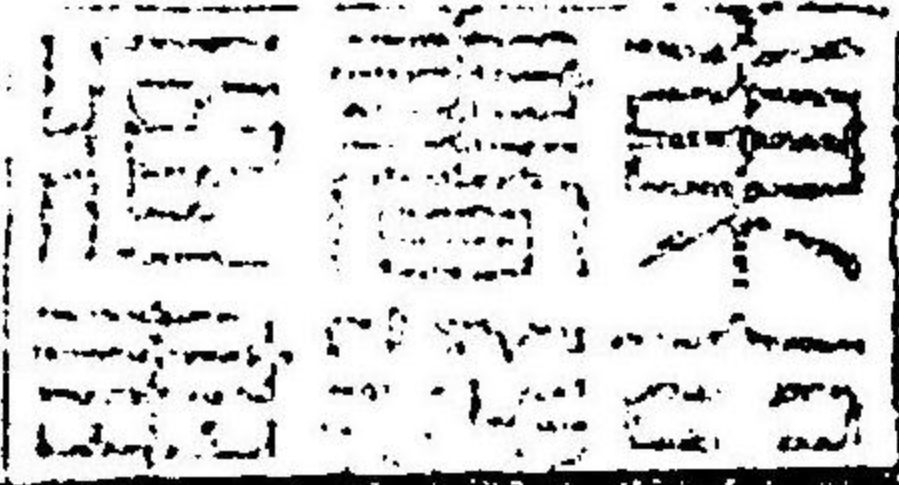


特31

1676



信夫吉緒著述

萬國一夜談

明治六年
三月新鐫

瞳園藏櫻

萬國一夜談卷之中

西京 宇田甘真先生 口授

東京 信夫吉緒 筆記

萬國地理及ニ教法ノ異ナル事

地球北半部東半部並細亞ノ南畔最上處

東首ニアリ

并諾伊并冊。二神ノ開闢ヨリ幾千萬年ナル

ヲ知ラス

天孫瓊々杵尊ノ降臨ヨリ四千九百餘年ニシ

テ神武天皇ニ至ル神武天皇元年ヨリ今日ニ
 至テ二千五百三十三年ナレバ通計七千四百
 三十餘年ノ國ナリ開闢建國天下第一ナリ
 本部里積一萬七千七百四十方里四五二ナリ
 北海道ヲ除ク
 人口三千四百七十八萬五千三百餘人
 方里ニ付 一千九百六十人ヅ、ニ當ル人民
 稠密天下第一ナリ
 此國ハ建國天下第一ナルユヘ人民稠密モ亦
 天下第一ナリ凡國ノ新舊ヲ論ッル者ハ必ス

之ヲ人口ノ多少ニ驗ス其國舊キ者ハ人民稠
 密ニシテ其國新シキ者ハ人民稀少ナルハ必
 然ノ理ナリ是レ人民ノ活物ニシテ器械製造
 ノ能ク造クル所ニアラザルヲ以テナリ
 支那 本部ハ日本ノ西ニアリ神聖ノ生スル地
 ナリ南畔ナリ
 伏羲氏以前ハ草昧ニシテ知ルベカラズ伏羲
 氏以下凡三十一世ニシテ堯舜トナル此際蓋
 シ凡一千二百年ニ過キズ堯舜ヨリ今ニ至テ
 凡四千二百餘年通計五千三四百年ノ國ナリ

日本ニ後ル、一凡二千百年ナレハ建國天下
第二ノ國ナリ

本部里積二十八萬五千四百方里ナリ
人口三億六千九百六十萬餘人

方里ニ付 一千二百九十人ヅ、ニ當ル人民
稠密日本ニ次ク天下第二ナリ此國ハ建國天
下第二ナルユヘ人民稠密モ亦天下第二ナリ
支那鞏鞏ハ里積五十萬三千方里人口二千萬

方里ニ付 人口四十人ヅ、ナリ此ハ北方
ニ屬シテ陰寒ナルユヘ人口少ナシ且大沙

漠アルガユヘナリ中部ナリ武烈イヅ

西藏ハ里積十一萬七千零八十方里人口一千
五百萬

方里ニ付 人口百二十九人ヅ、ナリ此ハ
支那本部ノ西ナレト高山ニ近キユヘ人口
少キナリ

印度 前印度ハ支那ノ西ニアリ佛教ノ出ル地
ナリ

釋迦以前蓋レ九一千二三百年ニ過キズ釋迦
以來凡二千九百年通計四千二百年ノ國ナリ

支那ニ後ル、一九一二年ナレバ建國天下第三ノ國ナリ

前印度里積二十三萬二千二百方里人口一億七千八百六十三萬

方里ニ付 人口七百六十九人ヅ、ニ當ル人民稠密、日本支那ニ次ク天下第三ナリ此國ハ

建國天下第三ナルニハ人民稠密モ亦天下第三ナリ

後印度ハ里積十四萬七千七百二十方里人口二千百萬餘

方里ニ付 人口百四十二人此ハ開ケシ

前印度ニ後ル

比耳西亞^{ヘルニア} 印度ノ西少シク北ニアリ此地未ク

神聖ヲ出サス武烈ハ之アリ

里積七萬五千五百六十方里人口千二三百萬

方里ニ付 人口百七十二人ナリ人民稠密日

本支那、印度、歐羅巴ニ次ク天下第五ナリ此國

ハ二千四百年前ニ建國ス建國遅ク人民モ亦

稠密ナラス

ア、ブガニスタン^{ウズベキスタン}里積三萬七千七百八十方里

人口五百十五萬

方里ニ付 人口百三十六人ナリヘルシヤ

ニ近シ

ベルヂスタシ里積二萬六千八百方里人口四

十八萬

方里ニ付 人口十三人ナリヘルシヤニ近

土耳其斯坦 印度比耳西亞ノ北ニアリ神聖ナ

シ武烈アリ中部ナリ

里積十六萬零五百方里人口六百萬

方里ニ付 人口三十四人ナリ

亞拉比亞 比耳西亞ノ西南ニアリ回教ノ出ル

地ナリ南畔ノ南トス

里積二十萬零一千五百方里人口五百萬

方里ニ付 人口二十五人ナリ此地ハ沙漠多

キユヘニ人口ハ少シ

亞細亞土耳其 比耳西亞ノ西亞拉比亞ノ北ニ

アリ耶蘇教ノ出ル地ナリ

里積十一萬二千四百四十方里人口千六百萬

方里ニ付 人口百四十二人。人民稠密天下第

六ナリ此ヨリ以下ハ數ルニ足ラス

西比利亞^{シベリヤ}支那^{チナ}鞏^{コン}比^ヒ西^シ亞^ヤ土^ト其^キ斯^ス坦^{タン}ノ北

ニ連ル北畔ナリ

里積九十萬零五千五百方里人口二百八十八萬

方里ニ付人口三人ナリ此地ハ北畔陰寒ノ

極ニノ人口繁殖シカタク神聖モナク武烈モ

ナキ地ナリ今ハ魯西亞國ノ管轄ナリ

以上八點ノ地ヲ合ノ亞細亞大洲ト名ク外ニ

四大洲アリ合ノ五大洲トス地球中ノ陸地茲

ニ盡

第一亞細亞大洲

此内ノ諸建國上ハ七千五百年前ヨリ下ハ三

千二百年前ニ至ル其開闢最古シ故ニ人民モ

亦最モ多シ土地亦最大ナリトス

里積二百九十三萬八千五百三十方里人口六

億零八千七百五十二萬餘

第二歐羅巴大洲

此内ノ諸建國上ハ三千二百年前下ハ一千四

百年前ニ至ル其元ハ亞細亞西邊ヨリ始マル

故ニ其人口モ亦之ニ次ク
里積六十二萬九千六百八十方里人口二億六
千五百萬

人口方里ニ付 四百二十一人ニ當ル人民稠
密日本支那印度ニ次ク天下第四ナリ

第三亞非利加大洲

此國ノ諸建國三千二百年前ヨリ始マル是モ
亦亞細亞西邊又ハ歐羅巴南邊ヨリ始マル故
ニ其人口モ亦之ニ次

里積百九十七萬三千方里人口七千萬

方里ノ人口三十五人半ナリ

第四亞米利加大洲

近代ノ開闢ナリ

里積二百四十三萬四千七百八十方里人口五
千八百萬

方里ノ人口二十三人八分ナリ

第五阿西亞亞大洲

亦近代ノ開闢ナリ

里積六十七萬一千六百六十方里人口二千百
萬

方里ノ人口 三十一人ナリ

夫レ神聖ノ出ルハ亞細亞ノ南畔ニ限ルハ勿論
ナレ其中心ニ於テハ日本其最第一ナルコト分明
ナリ支那ハ之ニ次キ印度ハ又之ニ次キ猶太ハ
又之ニ次キ亞拉比亞ハ又之ニ次ダリ其年曆ノ
次第先後自然ニ此ノ如シ此レ皆亞細亞南畔ノ
出ス所ニシテ其餘四洲ハ皆其餘流ヲ受クルノ
凡天地自然ノ化ハ東ニ始マリ西ニ廻リ又廻リ
テ東ニ還ルハ此レ其常經ナリ故ニ其視ル所ニ

就テ之ヲイヘバ日月群星モ皆東ヨリ西ニ又西
ニテ東ニ返ル天文既ニ然リ地理豈ニ獨リ然ラ
升ラレヤ亞細亞南畔ノ東端ヲ開闢ノ始トシ次
第ニ西ニ開クテ支那印度猶太亞拉比亞ニ至テ
止マル又其教ソレヨリ西ニ流レテ歐羅巴亞非
利加ニ大洲ニ至リ又西シテ南北亞米利加大洲
ニ至リ又西シテ阿西亞尼亞大洲ニ至ル茲ニ至
テ開闢ノ道一周ス此レ即チ自然ノ道ナリ然レ
イヘ此レ皆天地自然ノ化ヲイフナリ人カラ
イフニ非ス此レ皆神聖文教ノ流ヲイフナリ武

烈及ヒ技術ノ流ヲイフニ非ス若シ武烈ヲイハ
バ亞細亞ノ中部支那鞏紐ノ地方ニ始リ漸ク西
部ニ轉シ更ニ西ノ歐羅巴ニ至リ又西シテ亞米
利加ニ移レリ今ヨリノ後當ニ又西シテ阿西亞
尼亞及ヒ日本ニ返ルヘレ又技術ヲイハバ亞細
亞ノ西畔歐羅巴ニ始リ既ニ西ノ亞米利加ニ移
リ更ニ西シテ阿西亞尼亞及ヒ日本ニ返レリ今
ヨリノ後當ニ西シテ亞細亞全洲ニ滿布スヘレ
嗚呼文教既ニ開ケ盡テ武烈モ亦起リ武烈未タ
己マス技術又起ル文明開化今ニ至テ殆シト極

マル後世久シカラスシテ五大洲合シテ一大洲
トナルヘク諸人種合シテ一人種トナルヘク五
文教合シテ一文教トナルヘシ嗚呼孰レカ五大
洲ノ本是レ一大洲ナルヲ知ルモノアテンヤ
五大洲コレヲ五指ニ譬レハ亞細亞ハ大指ナリ
歐羅巴ハ食指ナリ亞非利加ハ中指ナリ北亞米
利加ハ無名指ナリ南亞米利加ハ小指ナリサレ
ト今西亞米利加ヲ合シテ一トシ亞細亞ノ南島
ヲ割テ阿西亞尼亞一洲ヲ立ツレハ西亞米利加
ハ無名指ナリ阿西亞尼亞ハ小指ナリイヅレニ

一 夜 談 卷 之 中 九

シテモ亞細亞ハ大指ニシテ五指ノ元首ナリ升
 テ又日本ハ大指ノ根ニノ手ノ全力全ク茲ニ在
 リ其地球ヲ維持スルノ狀トヘハ五指ヲ以テ
 一小球ヲ握ルカ如シ日本豈其カラ極メサルヘ
 ケンヤ
 又古ク五大洲宜ク改メテ三大洲ト見ルヘシ亞
 細亞ノ末ハ即阿西亞尼亞ナリ合シテ第一洲ト
 見ルヘシ歐羅巴ノ末ハ即亞非利加ナリ合シテ
 第二洲ト見ルヘシ北亞米利加ノ末ハ即チ南亞
 米利加ナリ合シテ第三洲ト見ルヘシト然レハ

則譬ヘハ猶龍ノ三爪ヲ以テ一珠ヲ攫ムカ如キ
 歟

地球ヲ東西ニ分テハ陸地東半球ハ西半球ヨリ
 大ナルト二倍半アリ又赤道ヨリ南北ニ分テハ
 陸地北半球ハ南半球ヨリ大ナルト三倍ス今、日
 本ハ東半球ノ北半球ニアリ此レ地球中最上ノ
 地ナリ尤モ亞細亞ノ地形、陰陽ヲ分テハ其北畔
 ハ陰ニメ陋ナリ其南畔ハ陽ニメ美ナリ故ニ亞
 細亞南畔ヲ地球中最上ノ地トシテ神聖ノ出ル
 所教法ノ起ル所トス其中ニ就テ日本ハ其發端

頂上ノ地トス實ニ最上中ノ最上ノ地ナリ天神
ノ始メテ地球ニ降り玉フ時先ツ此地ニ降り玉
フト亦宜ナラスヤ況ヤ太平洋ヲ以テ地球首尾
ノ介界トスレバ日本ハ其首ニ居ル此地ヨリ開
闢スル時ハ漸ク西シテ其腹ニ及ヒ遂ニ其尾ニ
及フベキヲ以テ天神必ス先ツ其首地ニ降り玉
フト知ルベシ凡天地ノ理ヲ窮メント求ムル者
豈ニ地勢ノ首尾本末ヲ知ラスシテ可ナランヤ
他邦ノ神聖英傑ハ皆日本ノ貴神ノ託生再出ナ
ルヲ知ラズンバアルヘカラズ

夫レ日本神仙自然ノ風教ハ本是レ神仙ノ自為
ニシテ即教トナリ教ニシテ即政トナリ文ニメ
即武トナリ一ニメ即多トナリ簡ニシテ即繁ト
ナリ虚ニシテ即實トナル皆是自然ノ風教ナリ
唯是レ一意ニシテ別ニ名目分別ナシト雖且自
ラ名目分別ヲ含メル者ナリ譬ヘハ猶天ノ虚空
ニシテ萬物ヲ含有スルカ如ク譬ヘハ猶性靈ノ
無形ニシテ五體百骸ヲ含有スルカ如ク譬ヘハ
猶君ノ無為ニシテ百官群臣ヲ總統スルカ如シ
故ニ卒然トシテ之ヲ見レハ教ナキカ如クニメ

實ハ大教ナリ智ナキガ如クニシテ實ハ大智ナ
リ能ナキカ如クニシテ實ハ大能ナリ大智精學
ノ流ニアラスンハ孰カ能ク之ヲ知ランヤ今天
地ヲ見ルニ能ク萬物ヲ生スルモノハ皆地ノ功
ナリ天ハ獨リ功ナキモノ、如シ然レハ天ナケ
レハ地モ居ル所ナク天氣下ラサレハ地モ一草
ヲ生スルコト能ハス撮ノ下ニ一草ヲ生セサルヲ
見テ知ルベシ故ニ先ノ天ヲ尊テ次ニ地ヲ親ム
ナリ知ラザル者ハ以為ク天ハ空ナリ貴フニ足
ラス地ハ實ナリ貴ハサルヘカラス空理ハ貴ブ

ニ足ラス實用コソ實ニ貴ヲベシト此レ大ナル
謬ナリ先ツ空理ヲ窺メサレハ何ニ由テカ實用
ノコトヲ發明シ得ンヤ歎スヘキノ至ナラスヤ又
父母ヲ見ルニ我ヲ生ム者ハ母ナリ我ニ乳シ我
ニ食レ我両便ヲ世話シ我衣服ノ世話シ我ヲ生
長スル者ハ皆母ノ勞ナリ父ハ獨リ勞ナキ者ノ
如シ然レハ父ナクハ母モ居ルヘキ家ナク父
ノ精下ラサレハ母モ我ヲ生ムコト能ハス況ンヤ
母ノ飲食衣服モ我飲食衣服モ本ハ皆父ノ財ニ
テ出来タル者ナルヲヤ故ニ先ツ父ヲ尊ンテ次

ハ世界ノ天アルカ如ク我身ノ性靈アルカ如ク
 家ノ主父アルカ如ク國ノ君アルカ如ク草木ノ
 根アルカ如ク子孫ノ祖アルカ如シ今日眼前ノ
 實用ナキカ如シト雖モ其實地ノ尊貴ナルヲ實
 ニ天下第一ナリ
 支那聖人ノ教ハ天地萬物自然ノ順序ヲ視テ之
 ニ則リ天下萬事ノ法ヲ立タル者ナリ夫レ能ク
 自然ニ則ルトイヘモ既ニ自然ト同シカラス譬
 ハ日本自然ノ教ハ猶蒼松翠竹ノ生々シテ自ラ
 其名状ヲイハザルカ如シ支那ノ教ハ猶松ト名

ケテ其色ヲ蒼トイヒ竹ト名ケテ其色ヲ翠トイ
 フカ如シ本来自然ニ此蒼松翠竹アリ故ニ又蒼
 松翠竹ノ名状アリ之ヲ名状スル者ハ蒼松翠竹
 ト別フルヲ知ルヘシ且ツ日本ノ神仙ハ本是レ
 天降ノ神仙ニシテ其儘日本ノ君主トナルナリ
 支那ノ聖人ハ是ニ異ナリ支那ノ土地ニ産出シ
 タル神聖ニシテ其道德ヲ以テ始テ能ク其君主
 トナリタルナリ 伏羲以前二千餘年前ニ日本ノ
 渡リ又大己貴命ト云テ神少名彦命ト云テ文那ニ
 ノ神始テ支那ノ海神川神等ヲ生シ夫レ渡ル此等
 鳥獸魚鼈等ヲ生セシ玉ヒ是ヨリ亞細亞ノ人種
 亦此神達ノ子孫ナルベシ

カテリ明伏羲以前ハ愚民ニシテ未タ聖人アラス
故ニ伏羲ヲ首出ノ聖人トス伏羲ノ八卦ヲ作ル
ハ即天地萬物自然ノ順序アルヲ摹寫シテ以テ
天下萬事ノ法トスルナリ此レ即聖人ノ教ナリ
此教ヲ以テ天下ヲ治ム故ニ即政トナル天ノ徳
ヲ智トシ地ノ徳ヲ仁トシ人及ヒ萬物ノ徳ヲ勇
トシ之ヲ我身ニ取レハ我身ニ智仁勇ノ三徳ア
リ即日本天神ヨリ傳ヘ玉フ所ノ鏡ト璽ト劔ト
ノ三神器ニ符合ス蓋シ此三徳ハ皆性靈ニ具ス
ル所ノ虚靈ノ徳ナリ形質アル者ニアラス故ニ

之ヲ我身ニ用ユルニハ智ヲ其意中ニ用ヒ仁ヲ
其心中ニ用ヒ勇ヲ其身ニ用ユレハ五倫ヨク治
マリテ其徳天意ニ叶フトセリ此レ其教ナリ意
首ニアリト知ルハ胸ニアリ身ハ腹及ヒ少腹或ハ腰
ニアリト知ルヘシ此三ヲ具足スルヲ中道ト云
ナリ天ノ徳ニ則リテ君ノ道トシ人及ヒ萬物ノ徳
ニ則リテ民ノ道トシテ天下治マル此レ其政ナ
リ即日本自然ノ君臣民ニ符合ス唯日本ハ自然
ニシテ在リ支那ハ以テ當然ナリトス此レ其異
ナル所ノミ又智ト仁トノ間ヨリ文徳ヲ生ス仁
ト勇トノ間ヨリ武徳ヲ生ス世道順ナレハ文徳

ニテ治メ世道逆ナレハ武徳ニテ治ムト決ス唯
 日本ハ自然ニシテ然リ支那ハ以テ當然ナリト
 ス又天ヲ一トシ地ヲ二トシ人及ヒ萬物ヲ三ヨ
 リ萬ニ至ルトス故ニ凡天下ノ物事ニナ其本ハ
 一ニシテ變シテ二トナリ又化シテ三トナリ遂
 ニ多數トナルト決ス唯日本ハ自然ニシテ然リ
 支那ハ以テ當然ナリトス簡ヨリ繁ニ往クモ亦
 然リ虚ヨリ實ニ往クモ亦然リ唯日本ハ名ケズ
 言ハスニテ行ハレ支那ハ名ケズ言ハザレバ行
 レス名ケテ言テ然クモ後ニ始テ行ハル之ヲ要

スルニ唯自然ト當然トノ不同ノモ其後歴聖相
 繼キ堯舜三代ニ至ルマダ皆此意ニシテ政教文
 武ヲ合シテ一道トスレバ以テ天下ヲ治ムルユ
 一遂ニ政ニ歸ス周ノ末孔子特出スルニ至テ其
 道ノ精微ヲ究ノ盡セシカニ其位ヲ得ス政ヲセ
 カリシユヘ遂ニ教ニ歸ス其後王者出レバ必ス
 孔子ノ教ヲ奉レテ以テ其政ヲナシ學者アレバ
 必ス孔子ノ教ヲ奉レテ以テ其教ヲナス故ニ政
 教遂ニ分レテ二塗トナルナリ然ルニ孔子ノ教
 ハ中人以上ニハ上ヲ語ルヘシ中人以下ニハ上

一 神 諭
 卷 之 中
 其

ヲ語ルヘカラストアリテ天下ニ中人以下ハ至
 テ多ク中人以上ハ至テ少キモノユヘ其深奥ノ
 處ハ唯易中ニ存スト雖其平日ノ言行ハ唯人
 事ニ切要ナル淺薄ノ處ヲノミ多ク用ヒシユヘ
 教トハ云ナカラ只政ノ教トナリテ釋老等ノ教
 ト同シカラス老子ハ却テ易中ノ秘ヲノミ説テ
 淺薄ノ處ヲ言ハザレバ自ラ別ニ一派ヲナシテ
 格外ニ高妙ノ教ノ如ク見ヘシニヨリ其流レ遠
 ニ變レテ仙術ノ教トナル其後佛説流レ入テ又
 別ニ一教ヲナス故ニ遂ニ儒釋道ノ三教ト稱ス

ルニ至レリ然レド世人皆孔子ノ教ヲ以テ正教
 トレテ政治ニ之ヲ用ヒ老ト佛トハ方外ノ教ト
 レテ只人民ノ好ミニ任セテ一人一箇ノ心術ト
 スルニ且ツ孔子ノ教ハ本是レ政教合一ノ教
 ナレハ心術ノ本トレテ以テ天下ヲ治ムルコト
 ハ本ヨリ老佛秘奥ノ心術ヲモ兼子タリ然ルニ
 後世孔子ノ教ヲ奉スル者誤テ以為ラク孔子ノ
 道ハ全ク政治ノ法ナリ決レテ心術ノ法ニ非ス
 ト因テ又老佛ヲ黜ケント欲シテ強テ心術ノ妙
 處ヲ廢シテ講セズ且子怪力亂神ヲ語ラズノ一

句ニ執着シテ遂ニ變レテ無鬼論トナリ神怪ハ
 夫レテ世ニ無キ者ナリトス是ニ於テ孔子ノ教
 極メテ衰ヘ遂ニ唯一箇ノ政學トナリテ日本自
 然ノ大教ニ比スレハ遙ニ劣レル者トナル然レ
 氏今其末書註解ヲ捨テ去リ其本經ニ就テ之ヲ
 考フレバ廣大具備シテ日本自然ノ大教ニ符合
 セサルコトナシ唯自然ヲ推レ定メテ以テ當然ノ
 法則トスルヲ異ナリトスルノミ嗚呼孔子ニ類
 セル神聖ノ列ハ皆日本貴神ノ再生ナルコト必セ
 ヲ

印度ノ佛教ハ自然ノ道ヲ貴ハス唯脩行ノ成ル
 ヲ貴フノミ何ントナレハ印度ノ初ハ唯愚民ノ
 ミニテ既ニ人民繁殖シテ其酋長王ト稱スルニ
 至レテ千有餘年ニレテ神聖未ダ出テス能ク之
 ヲ教ユル者アルコトナシ故ニ自然ノ風習甚ク陋
 醜ナリトス其間婆羅門ト稱スル俗教數十種ア
 ヲテ梵天王ノ事ナドヲ説キ又種々ノ苦行ヲナ
 シ怪術ヲ發得スト雖モ是非紛々トシテ統一ス
 ル所ナレ釋迦氏是時ニ出テ之ヲ救ハント欲ス
 故ニ自然ヲ貴ハス唯正道ヲ脩行シ成ストテ教

エルナリ且婆羅門ノ輩皆其怪術ヲ挾持ノ服從
 セサルヲ慮ル故ニ其初大雪山ニ入テ苦行樂行
 スルト十餘年宣テ勝レタル怪術ヲ發得シ後チ
 出テ其教ヲ宣テ故ニ論ヲ以テ服セサル者ハ論
 ヲ以テ勝テ術ヲ以テ服セサル者ハ術ヲ以テ勝
 チ遂ニ能ク其教ヲ宣通スルヲ得タリ其說初
 ハ卑近ニシテ知リ易ク從ヒ易キヲ要シ後漸ク
 以テ高妙ニ進ミ晚年遂ニ其秘奥ヲ說破シ盡ス
 唯其說其時ニ從ヒ其機ニ應ヒテ說與レ唯其信
 シ易ク入り易カラシムテ欲スルニ因リ其說ク

所時々同シカラス大小ノ度符合スルヲナシ故
 ニ五十年間說ク所ノ諸經甚ク摸捉シ難シ然レ
 ニ其大要過去未來現在ノ三世ヲ立テ善惡ノ應
 報必然ナルヲ知ラシム過去世ノ善惡ハ現在
 世ニ應報シ現在世ノ善惡ハ未來世ニ應報ス故
 ニ惡ヲスル者今生ニ其惡報ナキヲ恃ミテ惡ヲ
 遂クハカラス來世ニ必ス惡報アラシム必ス悔悟
 スヘシ又善ヲスル者今生ニ其善報ナキヲ疑ミ
 テ善ニ怠ルヘカラス來生ニ必ス善報アラシム必
 ス勉勵スヘシ能ク之ヲ說テ衆ヲ教ユル者ハ佛

トス佛ハ過去數百世善ヲ脩メテ遂ニ佛トナル
 一ヲ得タリ故ニ佛ト成ラント欲セハ今ヨリノ
 後善ヲ脩ムルヲ數百世ニシテ佛ト成ルヲ得
 ヘシ今生愚ナル者ハ過世ニ善種少シ故ニ佛ヲ
 得ルヲ遲ニ今生智ナル者ハ過世ニ善種多キカ
 故ニ佛ヲ得ルヲ速ナリト且ツ其善惡ノ報モ亦
 自ラ之ヲ取ルノミ天ノ之ヲ禍福スルニ非スト
 決ス故ニ其自脩行ヲ貴テ天道ノ自然ヲ貴ハサ
 ルナリ然レモ智愚ニ因テ其說亦同カラズ愚者
 ニハ各宜ニ隨テ信スヘキ所ノ古佛菩薩ヲ以テ

ニ篤ク信スレハ脩行モ亦其中ニアリトス智者
 ニハ唯一佛ヲ教ヘテ全ク自脩行ニアリトス其
 愚者ニ教ル者ハ假說ナリ其智者教ル者ハ實說
 ナリ而シテ其智者自脩ノ法ハ唯三學ニアリ曰
 ク戒定慧是ナリ戒ハ以テ中ヲ學ヒ定ハ以テ假
 フ學ヒ慧ハ以テ空ヲ學フ之ヲ空假中ノ三諦ト
 云ナリ空トハ即虚空ナリ假トハ即國土ナリ中
 トハ即人事ナリ此レ即天地人三才ノ謂ナリ之
 フ學フ三學ハ即智仁勇ナリ慧ヲ以テ空ノ虚空
 フ悟得スレハ法性ノ徳ト云即法身佛ナリ定ヲ

以テ假ノ國土ヲ悟得スレハ般若ノ徳ト云即報
 身佛ナリ戒ヲ以テ中ノ人事ヲ悟得スレハ解脫
 ノ徳ト云即應身佛ナリ此ノ三身ハ實ハ即一身
 ナリ此レヲ其秘奥ノ説トス故ニ曰ク空ハ猶鏡
 ノ明ノ如ク假ハ猶鏡ノ影ノ如ク中ハ猶鏡ノ身
 ノ如ク一ニシテ三アリ三ニシテ一ナリト然レ
 ハ則空ハ即智ナリ鏡ナリ假ハ即仁ナリ瓊ナリ
 中ハ即勇ナリ劍ナリ其極致秘奥ノ論ハ即支那
 聖人ノ智仁勇ノ一徳トナルヲ指サシ即日本神
 仙傳ル所ノ鏡瓊劍ノ一靈ナルヲ指サスノミ其

他枝葉ノ説許多精詳ノ法ハ皆方便權教ト名ク
 皆假説ナリ一時ノ功用ナキニ非スト雖其弊
 害モ亦甚ク多シ蓋シ釋迦氏其風土ノ陋習ニ因
 テ止ムコトヲ得スシテ此方便權教ヲ多ク用テ以
 テ其實教ノ階梯トスルノミ故ニ其晚年既ニ實
 教ヲ説終テ後ニ方便權教ヲ以テ嚴誡トスルナ
 リ惜ラクハ後世其教ヲ奉スル者各其偏信スル
 所ヲ主トシテ其宗派ヲ分裂ス入ヲシテ其通徒
 スル所ヲ知ルヘ無カラシムルニ至ル此レ皆釋
 迦氏ノ本旨ヲ得サルモノナリ故ニ今世其教亞

細亞大洲ノ東半部ニ行ル、トイヘ凡皆釋迦氏ノ意ニ非ルナリ嗚呼釋迦氏モ亦日本貴神ノ再生スル者カ武ハ支那聖人ノ再ヒ印度ニ生ル、ナリ然ラスンハ安ソ能ク其論此ノ如ク日本教支那教ニ符合スルコトヲ得ニヤ猶太多西地ノ耶蘇教多西地ハ猶太教ノ古法ニヨリテ更ニ之ヲ一新スルノモ夫レ猶太教ト云ハ本ヨリ其風土ニ相應セル一種ノ俗教ナリ然レ其初ハ天神出現シ武ハ天使ヲ出シ武ハ憑託シテ人ノ吉凶禍福ヲ宣示シ他神ヲ祭ルコトナク唯一

神ヲ祭り五倫ヲ全フシ五戒ヲ保クシム善人之ヲ信スル者ハ其家ヲ盛ニシ惡人之ヲ信セサル者ハ遂ニ其族ヲ滅ス故ニ善人確信ニテ之ヲ傳フル者ナリ即今ノ舊約書是ナリ耶蘇氏一千餘年ノ後ニ出テ其教ノ淺キヲ深クシ其教ノ粗ナルヲ精ニシ又其舊弊ノ拘泥ヲ解テ更ニ之ヲ廣大ニスルノモ且ツ其出ルヤ亦舊約書中ノ圖識ニ應シテ生マレ其圖識ニ應シテ為シ其圖識ニ應シテ教ヘ其圖識ニ應シテ殺サル其説ニ曰ク最初ニ天神始テ人ヲ造ルニ先ツ天地萬物ヲ作

リ次ニ入祖一男一女ヲ造ルヲ六日ニシテ終ル人
祖二人天神ノ命ニ違テ一菓ヲ食フ此レ其性ハ
善ナレト既ニ罪ヲ犯セリ其後世々人民繁殖ス
ルニ從ヒ入欲益々熾ニシテ罪益々深シ是ヲ以
テ入地獄ニ墮セサル者ナシ天神之ヲ開示スレ
ト信レテ罪ヲ免レ天堂ニ生ル者ハ少ク信セ
ズレテ地獄ニ入ル者ハ多シ是ニ於テ天神之ヲ
憐ニ後ニ神子ヲ降シテ衆罪ニ代リテ刑セラレ
死シテ以テ衆罪ヲ購フヘレト宣示ス此レ舊約
書ノ大要ナリ耶蘇氏出ルニ及テ悉ク其圖識ニ

ニ應シ我ハ即神子ナリ天神ノ命ヲ受テ一死ヲ
以テ萬罪ヲ購フ者ナリ故ニ我ヲ信スル者ハ即
天神ヲ信スル故ニ罪ヲ免レテ天堂ニ生ル信セ
サル者ハ地獄ニ入ルト此レ新約書ノ大要ナリ
且ツ其神異ノ術モ亦神子ト稱スルニ符スヘシ
故ニ其教終ニ大ニ盛ナルニ至レリ然レト其舊
約ノ舊法ヲ確守シテ耶蘇ヲ信セサル者ハ反テ
之ヲ惡ミ遂ニ別派トナル此レヲ猶太教ト名ク
故ニ耶蘇教ト稱スル者ハ新約書ト舊約書トヲ
貫スキニシテ二トセス所謂ル東派希臘教西

類シテ能ク佛家末流ノ拘泥ヲ論破スルニ足リ
儒家末流ノ無鬼論ヲ壓倒スルニ足レリ然レド
其理ノ抑揚綏擒太過ニシテ譬へハ猶獲秦張儀
ノ虚喝ニ類シ能ク人ヲシテ卑ニシテ其弱小ニ
畏縮セシメテ其強大ニ驕傲セシムルカ
如シ又猶好賢ノ虚喝ヲ以テ人ノ微恙ヲ大病ナ
リトシ必死ニシテ免ルヘカテストレ後ニ其一
九ヲ救シテ起死回生ノ功ニ誇ルカ如シ然レド
此レモ亦其風土ノ陋習ニ因テ止ムヲ得サル所
ナレハ唯其實意ハ人ヲシテ惡念ヲ去リ惡行ヲ

改メテ善念ヲ起シ善行ヲ脩メシメント欲スル
ニ在ルナリ乃儒家ノ天帝ヲ奉シテ五倫ヲ善ク
スルニ類シ又佛家ノ後世ノ應報ヲ畏レ想ヒテ
惡ヲ改メテ善ヲ脩メシムルニ類シ又日本ノ天
神ヲ主トシ祭ルニモ類セリ其異ナル所以ノ者
ハ唯風土ノ異ト時機ノ殊ナルトニ因ルノ道
ハ豈ニ異轍アルコトヲ得ンヤ耶蘇氏モ亦日本ノ
貴神或ハ支那印度ノ聖哲再々猶太地方ニ出生
スル者カ然ラズンハ安ンノ能ク此ノ如ク同意
ナレトヲ得ンヤ

一 卷之五 一

亞拉比亞ノ馬迦美教ハ一ニ回教ト名ク此教ハ
 猶太教ト耶蘇教トノ二教ヲ研究シ之ヲ合一シ
 テ別ニ一派ヲ立タル者ナリ故ニ其天神ヲ尊奉
 スルト二教ニ異ナルトナシ然レモ耶蘇教舊流
 ニ比スレハ奇怪ノ説大ニ減シ甚ク儒家ノ正實
 論ニ近シ儒家ニ比スレハ唯祈禱符水ヲ用ユル
 ヲ異ナリトスルノニ此レ西域諸國ハ其初ニ神
 聖出ルトナク風俗卑陋ニシテ纔ニ俗教ノニナ
 リシニヨリ耶蘇氏神聖ナリト雖モ其風俗ニ違
 フト雖ハス唯其俗教ニ隨順シテ教ヲ立シナレ

ハ未ク其俗習ヲ一洗レ盡スニ暇アラヌ故ニ其
 教ニ奇怪ノ説尚多トス世運漸ク開ケテ馬迦
 美ノ頃ニ至テハ俗習稍減レテ奇怪モ尤少ク奇
 怪ヲ信スルモノモ益少シ故ニ正論ニ近付カサ
 ルヲ得サルナリ是ニ於テ耶蘇教舊流殆ク下此
 論ニ敵シ難キヲ致ス故ニ東西兩派ニ分レ東ハ
 希臘教トシ西ハ始テ羅馬教トナル其後羅馬教
 又再ヒ分レテ新流舊流トナル其新流ハ奇怪ノ
 説大ニ減スト雖トモ然レモ之ヲ回教ニ比スレ
 ハ猶奇怪アリトス回教ハ曰ク耶蘇ハ天神ノ子

たりトイフヲ信スルニ足ラス夫レ天神ハ蒼々
 ノ中ノ主宰ナリ豈ニ區々タル一小人形ニシテ
 即天帝ナリトイヒ或ハ天帝ノ子ナリト云ヘケ
 ニヤ此レ虚誕ノ至ナリトイヘリ然レモ耶蘇教
 新流ト回教ト相去ルヲ遠カラス回教ト支那ノ
 孔子教ト其論亦甚ク相近レ唯回教ハ其論猶奇
 怪ヲ帶ヒ孔子教ハ奇怪ニ於テハ存シテ論ヒス
 回教ハ教ノ教ナリ孔子教ハ政ノ教ニシテ政教
 一致シ日本自然ノ大教ト符合ス回教ト同シカ
 ラサルヲ分明ナリサレモ回教ノ起ルヤ其力ヲ

以テ教法ト版圖ト一時ニ之ヲ弘ムレハ是モ亦
 教中ノ政ヲ兼タリ唯孔子教ハ南方君子ノ強ヲ
 以テレ回教ハ北方強者ノ強ヲ以スルヲ稍異ナ
 リトスルノモ然ラハ則此教ハ日本支那ノ教ニ
 甚ク相近シトス此モ亦日本支那印度猶太ノ聖
 哲亞拉比亞ニ再生スルヲ必モリ但其教ノ不同
 ナル所ハ天時水土ノ異ナルニ因ルノモ孰レカ
 五教ヲ一ニアラスト云ヤ故ニ曰ク日本教ヲ知
 レハ支那教モ知ルヘク支那教ヲ知レハ印度教
 モ知ルヘク印度教ヲ知レハ耶蘇教モ知ルヘク

耶蘇教ヲ知レハ回々教モ知ルヘレ若シ日本教
ヲ知ラスレハ支那教ハ解スヘカラス支那教ヲ
知ラスレハ印度教ハ解スヘカラス印度教ヲ知
ラスレハ耶蘇教ハ解スヘカラス耶蘇教ヲ知ラ
スレハ回々教ハ解スヘカラス故ニ其要ハ其ツ
日本教ヲ知ルニ在ルノミ

特31
676
函架號册

号
三
本

022205-002-3

特31-676

万国一夜談

宇田 甘冥ノ述

中

M6

ADA-0642

